

議 事 録

会議名	釧路市障がい者自立支援協議会 雇用就労部会	
事務局	釧路市障がい福祉課障がい福祉担当 釧路市障がい者基幹相談支援センター	
開催日時	令和元年9月19日(木) 16:00~17:30	
開催場所	釧路市役所防災庁舎5F 会議室A	
出席者	<p>参加者：51名</p> <p>高谷部会長(ふれん)、佐藤副部会長(ウェルフェアグループ)、和泉(自立センター)、原田・吉川・中村・宮腰・五十嵐・村元(ふれん)、小西(サンフラワー)、岡田(社会就労センターらびい)、新山(いずみの里)、小柏(あるま縁屋)、今野(れぼぜ)、金橋(あらんじえⅡ)、鈴木(洋)・竹谷・鈴木(浩)(あらんじえ)、宮下(工房かのん)、梅野(音羽協働センター)、宮脇(すまいる946)、柳沢(オフィスきらり)、堀口・石川(せんしんサポート)、池田(はしどい学園)、武田(さはみす)、青塚(うるるあ)、及川(こぼん)、大澤(あかし)、佐々木(すてっぷ)、中尾(ひかり自立センター)、西川(HAGemi)、寺嶋(NEXT SPACE)、鈴木(みらい)、太田(きぼう)、鎌田(ワークサロン)、小松・細谷(V I V I A N A)、千葉(大きな木)、小野(ノーサイド)、中山(ナポリの窯)、池田(白糠養護学校)、追分・工藤(釧路養護学校)、成田(中標津支援学校)、立浪(中小企業家同友会)、原田・齋藤(鶴野支援学校)、島田(ワーカーズコープ釧路)、笹村(生活福祉事務所)</p> <p style="text-align: right;">議事録担当：小鹿(ハーモニー)(敬称略)</p>	
	その他	なし
	傍聴者	なし
	事務局	<p>釧路市障がい福祉課(竹腰・佐々木・吉田慎)</p> <p>釧路市障がい者基幹相談支援センター(近藤・脇田)</p>
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 挨拶 高谷雇用就労部会長 3. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 雇用就労部会部会員事業所紹介(ワークサロン) (2) グループワーク 前回研修の振り返り(生活保護制度について) (3) その他 次回の部会について(北星学園講師による研修) 4. 閉会 	

1、開会

2、高谷雇用就労部会長より挨拶

前回の生活保護制度の振り返りを今回グループワークで行っていく。研修で学んだことを支援に活かしていくことを目的としている。

3、議事

(1) 部会員紹介

○ワークショップ（就労継続支援A型事業所）

- ・作業内容：就労継続A型事業所。清掃作業を中心に行っている。清掃作業の幅を広げたいが、同じ仕事の中でスキルアップをしていけるよう支援している。
- ・定員：20名
- ・課題：高齢化が進んでおり、利用者は30代から50代。若い世代との入れ替わりが少ない。

(2) グループワーク

○2つのテーマについて各グループで議論、発表している。

テーマ1：就労系サービスと生活保護

生活保護受給中の利用者の置かれている環境について

テーマ2：就労意欲や社会的自立

支援者ができることについて

テーマ1：就労系サービスと生活保護

○生活保護の状況

就労形態による違い（就労移行、就労継続A型、就労継続B型）

- ・就労移行支援…生活保護を受けている人は多くない。
その中でも抜け出したい人は多い。
- ・就労継続A型…生活保護を受けている人はそれなりにいる。
また、抜け出したい気持ちと頼りたい気持ちと両方を抱えている。
- ・就労継続B型…生活保護を受けている人がほとんど。
また、抜け出す意欲が低いことも多い。

環境による違い

- ・受ける人が少ない…親が健在で自宅から通っている。
- ・受ける人が多い…障がい者年金がもらえない。
家族の支援が受けられない。

○各グループからの主な意見等

- ・現状に満足している人が多い。
- ・受給額の減額を防ぐため、仕事の意欲が上がらないケースがある。

- ・働かない生活に慣れてしまい、世代が変わっても保護を受けることもある。
- ・個人より世帯の方が抜けにくい。
- ・実家暮らしの場合、生活保護予備軍になっている場合も。
- ・金銭管理が適切にできていないことがある。
- ・ギャンブル等につき込むケースもみられる。
- ・家族間の収入の差によるトラブル。
- ・医療費がかからないため、過度に通院する問題がある。
- ・本人に生活保護に関する知識がどれだけあるか定かではない。
- ・就職よりA型、A型よりB型、仕事を諦めるなどの選択をする。
- ・金銭管理が適切にできず、就業、日常生活に影響が出る。

テーマ2：就労意欲や社会的自立

○問題に上がる要因

- ・今現在の生活に満足している。
- ・工賃と障がい者年金で生活している人が多い中にと、今の生活に疑問を抱きづらい。
- ・働きたくない、生活保護で生活できているからいいという考え。
- ・一般就労するというイメージ化ができていない。
- ・そもそもの選択肢に限りがある。
- ・自己決定がなかなかできない。
- ・年を重ねるにつれ現状維持で精いっぱいになりがち。
- ・生活が厳しく就労に向けた準備そのものが難しい。
- ・働きたいというより居場所を求めて来るケースがある。
- ・世代ギャップにより就労の定着が悪い。
- ・勤務日数を増やすと、家族から減らしてほしいと連絡が来るケースも。
- ・ゆるく生活したく、後先のことを考えてない。

○就労意欲や社会的自立を促すには

- ・一般就労の職種において、知識や興味の幅を広げられるよう努める。
- ・一般就労への道筋や情報を提供する。
- ・長期就労のため、コミュニケーション能力の向上を目指す。
- ・仕事に対する責任感を持たせる。
- ・仕事の選択肢を増やして、選んで仕事をできるような整備をする。
- ・手を掛け過ぎず見守り、自分自身で気付けるよう工夫する。
- ・適性を見極めをする。
- ・本人のお金が欲しいという気持ちを大切にす。
- ・目標を確認しながら役割を感じてもらう。
- ・目標を達成するためにどうすべきか一緒に考える。
- ・成功体験または声掛けをし、自信につなげる。

- ・様々な相談に対して、話を聞き、立ち止まって考えるよう促す。
- ・関係機関とのコネクティングなどの支援をする。

(3) その他

○事務局より、次回部会では、北星学園大学の講師を招いての研修会を開くことを周知している。詳細は後日案内する。

4、閉会

以上